

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ポレスター大和中央4丁目 新築工事	階数	地上12F
建設地	神奈川県大和市中央4丁目508-2、508-14、508-22、508-41、509-28の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	135人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月 予定	評価の実施日	2025年6月18日
敷地面積	739 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社マリモ
建築面積	438 m <sup>2</sup>	確認日	2025年6月18日
延床面積	3,748 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社マリモ

  

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 1.3			標準計算		
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★	30%: ★★★☆☆ 60%: ★☆☆☆ 80%: ★☆☆ 100%: ★☆ 100%超: ☆	①参照値 100% ②建築物の取組み 89% ③上記+②以外の 89% ④上記+ 89%	Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境		
100 C S A B+ B- C 0 50 100 環境負荷 L	3.0 1.5 BEE=1.0 58 44 0.5	92 (kg-CO <sub>2</sub> /年·m <sup>2</sup> ) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境		

  

2-4 中項目の評価(バーチャート)	
Q 環境品質	Q のスコア = 3.3
Q1 室内環境	Q1 のスコア = 3.5
音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	4.3 3.2 3.0
Q2 サービス性能	Q2 のスコア = 3.3
機能性 耐用性 対応性	3.8 2.9 3.0
Q3 室外環境(敷地内)	Q3 のスコア = 3.0
生物環境 まちなみ 地域性・	3.0 3.0 3.0
LR 環境負荷低減性	LR のスコア = 3.2
LR1 エネルギー	LR1 のスコア = 3.9
建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	4.0 3.0 4.4 3.0
LR2 資源・マテリアル	LR2 のスコア = 2.6
水資源 非再生材料の 汚染物質	3.0 2.4 3.0
LR3 敷地外環境	LR3 のスコア = 2.9
地球温暖化 地域環境 周辺環境	3.4 2.5 3.0

  

3 設計上の配慮事項		
総合	良好な都市環境を形成しにぎわいのある街並みを創出するよう努める計画とした。	
その他	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
ZEH-M Oriented水準の省エネ性能を満たす計画とし省エネルギーで快適な室内環境を実現できるよう努めた。	耐用年数の長い配管を採用して更新必要期間を長くするよう努めた。	敷地内に緑化を施することで地表面温度上昇を極力抑える計画とした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めた。	特になし	雨水流出抑制設備を取り入れ敷地外の環境負荷低減に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される